



文・写真  
山本 長春  
やまもと ひさはる

(難波田城資料館  
市民学芸員)

## 第4回「南畑村」が消えた日

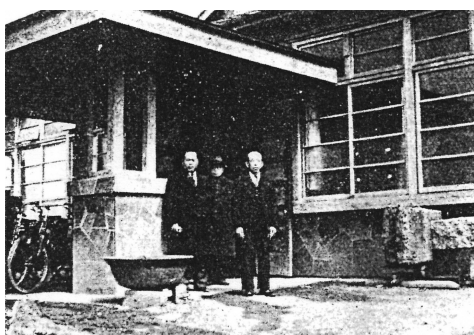
閉店したJAいるま野南畑支店。県道に面した角に取り残されたように石碑が立っています。

### 南畑村道路元標

御影石の消えかかった刻字をたどると「南畑村道路元標」と読めました。



いまに残る「南畑村道路元標」(上南畑)



旧南畑村役場  
(『埼玉県入間郡南畑村之沿革史』から)

幕末、南畑地区には上南畑、下南畑、南畑新田、大久保(後に東大久保)の4村がありました。大久保村は川越藩領で、あとの3村は幕府領。南畑は中世には「難波田」と書かれ、江戸時代前半は「難畑」でした。しかし水害が多く幕府に願い出て「南畑」に改名した、といわれています。

明治政府は、富国強兵、中央集権国家を目指し1888年(明治21年)、市制町村制を公布します。

「明治の大合併」です。4村では新村名案「南畑村」をめぐり南畑3村と東大久保村とが激しく対立しました。翌年、県が4村合併を強行し、「南畑村」ができたのです。

### 富士見村の誕生

戦後、「南畑村」は大きな転機を迎えます。1953年(昭和28年)、3年間の時限立法である町村合併促進法ができます。「昭和の大合併」です。当時、富士見市域には南畑、鶴瀬、水谷の3村があり、南畑、鶴瀬、福岡、大井、三芳、柳瀬(現所沢市)の6村が協議しました。(水谷村は北足立郡で「朝霞ブロック」で合併の予定)

協議はもめにもめました。やっと56年9月22日、「南畑、鶴瀬、水谷の3村が9月30日を期して合併」を各村議会が議決したのです。一般公募で上がった新村名は「入間野」「新生」「三光」「三ツ和」など。結局、富士山にちなんで「富士見村」が採用されたわけです。それは67年に及ぶ「南畑村」の消滅を意味します。今年9月でちょうど70年です。

本来、市町村合併は住民が自主的に決めること。上から押しつけてはうまくいきません。

次回から、南畑地区の史跡、文化財を紹介していきます。

#### 【参考】

『富士見のあゆみ』  
『新版 富士見のあゆみ』  
(市発行) など。